

巻 頭 言

小西 靖彦

日本医学教育学会 理事長

2022年版の医学教育白書を上梓することを誇りに思う。医学教育白書は、1972年に学会誌「医学教育」の特集「日本医学教育の現況」としてまとめられ、1978年以降は「医学教育」の別冊として4年ごとに発刊されてきた。2014年からは独立した書籍として刊行されている。今回の医学教育白書は第12版ということになる。

医学教育白書は、わが国の医学教育の普遍的な原則や新たな展開などに関して可能な限り広い観点から記載し、医学教育者の道標となることを目指している。医学教育に携わる多彩な著者に医学教育に関してまとめていただいた。

本白書では、第1部としてわが国の医学教育の「現状と振り返り」を行った。入学から卒前教育、卒後臨床研修から生涯学習に至る時系列とともに、医学教育研究や専門家制度、医学教育の認証評価、医学教育行政など多面的に現在の医学教育について振り返っている。

第2部では、新たな展開と取り組みについて記載した。最近目覚ましい進歩をみせるICTを活用した教育や、わが国の教育の本流となってきたアウトカム基盤型教育をはじめ、少子高齢化社会に備えた医学教育などについても触れられている。

2019年春から全世界を巻き込んで医学教育の世界にも甚大な影響を与えた「新型コロナウイルスと医学教育」については、章を替えて第3部で集中して報告した。オンライン教育の功罪、臨床実習への影響、試験（評価）のあり方など、ここ数年医学教育分野がコロナ禍で多彩な工夫をしてきたことをまとめている。感染症教育については第1部でも充実を図った。

第4部では医学・医療に関わる多くの職種の教育についてさまざまな領域から触れていただいた。医療は多職種で行われ、多職種連携教育の意義はますます深くなっている。

最後に第5部で、日本医学教育学会の活動と医学教育学会大会について報告を行った。学会活動は委員会と部会の両輪で質・量ともに増大してきた。大会も主催校と学会の委員会との協働で大きな変化を始めている。

わが国の医学教育は、医学・医療の進歩と歩を一にして日々進歩を続けている。医学教育に対する社会のニーズと、医療者のなかに本質的に存在する教育への情熱は、医学教育の両輪である。2022年時点での医学教育を俯瞰し、更なる発展を祈念したい。